

令和8年 第2回定例会

一般質問文書表

稲城市議会

通告番号	氏名	質問項目 (17人、52項目)	備考
1	池田英司	<ul style="list-style-type: none"> 1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査について 2 児童生徒に親しまれる学校給食について 3 特定外来生物に指定されている植物等による公園・緑地への影響と対応について 	
2	つのだ 寛美	<ul style="list-style-type: none"> 1 HPV感染症予防接種の取組について 2 妊娠期から安心できる未来を支えるために 3 こどもの自殺対策推進パッケージについて 4 生命(いのち)の安全教育について 5 マンツーマン中学校オンライン英会話レッスンについて 	
3	山岸 太一	<ul style="list-style-type: none"> 1 中東情勢の混乱による燃料不足・原料不足による影響から市民のくらしと営業を守る対策について 2 誰もが安心して利用できる介護保険制度の実現に向けて 3 市民の交通の権利と移動の自由を保障し、市民の足となるバスにしてい取り組みについて 4 市民の家計負担増となる下水道料金の値上げの中止について 	
4	川村 あや	<ul style="list-style-type: none"> 1 庁舎内での公民連携の更なる活用について 2 稲城市立病院のあり方について 3 小中学校プール授業のあり方について 	
5	角田 政信	<ul style="list-style-type: none"> 1 高齢者の孤立、孤独に対してみどりクラブの果たす役割について 2 第二次稲城市再犯防止推進計画について 	
6	中島 健介	<ul style="list-style-type: none"> 1 市の財政について 	
7	村上 洋子	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校や子ども施設での香害や化学物質の曝露から子どもを守るためにできることについて 2 離婚後共同親権・養育費・親子交流等の民法改正の施行で自治体が対応すべきことについて 	
8	佐藤 しんじ	<ul style="list-style-type: none"> 1 私立小中学校に通う家庭への学校給食費の負担軽減について 2 災害時に指定避難所となる市内公共施設におけるトイレの洋式化について 3 多文化共生社会の実現について 4 次世代への平和の継承に向けた取組について 	
9	梶浦 みさこ	<ul style="list-style-type: none"> 1 学校・市公共施設のトイレ環境の向上について 2 アフター更年期(更年期後不調)対策の啓発と骨粗しょう症検査の拡充について 3 年金相談員による若葉台出張所での年金相談について 	
10	岡田 まなぶ	<ul style="list-style-type: none"> 1 市内路線バスの維持・拡充について 2 市立公園トイレの洋式化の推進について 3 国民健康保険の子どもに係る均等割保険税の負担軽減、廃止について 4 城山公園龍の池の階段の手すり設置等について 	
11	湯谷 ひろし	<ul style="list-style-type: none"> 1 イラン情勢に伴う物価高騰、原油価格高騰の影響と対策について 2 震災時における妊産婦及び乳幼児への支援について 3 トイレカーの災害対応車両登録制度への登録について 4 利用者にも周辺住民にとってもより安全な公園整備について 	

12	武田まさひと	<ul style="list-style-type: none"> 1 後期高齢社会における孤独死・引取困難事案と尊厳ある弔いについて 2 南山東部地区におけるドッグラン整備検討の進捗について 	
13	土居のりひろ	<ul style="list-style-type: none"> 1 下水道の点検について 2 市内における熱中症対策及び防災機能を備えた公園づくりについて 3 市歌を活用した啓発について 	
14	中 田 中	<ul style="list-style-type: none"> 1 市職員の勤怠管理の効率化・デジタル化について 2 市のスポーツ施設(テニスコート等)の適正利用と管理体制の強化について 3 上谷戸川の保全・整備について 	
15	田島きく子	<ul style="list-style-type: none"> 1 iバスについて 2 都営大丸団地跡地の活用について 3 学校の暑さ対策について 4 生理用品の学校トイレへの設置について 	
16	榎本久春	<ul style="list-style-type: none"> 1 介護予防事業について 2 シェアサイクルの拡充について 	
17	いそむらあきこ	<ul style="list-style-type: none"> 1 多様な保育ニーズへの対応と待機児童対策について 2 育児休業中における学童クラブの継続利用と子育て支援について 3 金利環境の変化を踏まえた公金管理・運用について 	

通告番号	会 派 名	氏 名
1	新政会	池田英司

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査について</p> <p>「令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が約182万人を対象に実施されました。主な傾向として、体力合計点では一部でコロナ前水準に回復しつつある一方、握力・持久力の低下や生活習慣の課題が指摘されています。そんな中、本市における児童生徒の体力・運動能力の現状と、健やかな体を育むためのアプローチについて伺います。</p> <p>(1)実技テスト調査について、小学5年生、中学2年生それぞれの調査項目について伺います。</p> <p>(2)実技テスト調査の結果について、小学校の男子・女子の全国の傾向について伺います。</p> <p>(3)実技テスト調査の結果について、中学校の男子・女子の全国の傾向について伺います。</p> <p>(4)質問調査における運動習慣等について稲城市立小学校における男子・女子の傾向について伺います。</p> <p>(5)質問調査における運動習慣等について稲城市立中学校における男子・女子の傾向について伺います。</p> <p>(6)稲城市立小・中学校の児童・生徒の体力向上を図るため学校での取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(7) 稲城市立小・中学校の児童・生徒の体力向上を図るための教育委員会の取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>児童生徒に親しまれる学校給食について</p> <p>給食の時間は、児童や生徒が、友達や仲間と楽しく食事を囲みながら、美味しい給食を味わい、心身の健やかな成長につなげる大切な時間があります。楽しく過ごす時間の中で、給食から栄養を摂り、食への関心を深め、望ましい食習慣や食事マナー、そして感謝の気持ちなどを育む、食育の観点からも重要な教育活動の一つであると思っています。</p> <p>だからこそ、児童生徒が毎日の給食を楽しみにし、親しみを持てる学校給食としていくことが大切であると考え、児童生徒に親しまれる学校給食について伺います。</p> <p>(1) 学校給食については、栄養バランスだけでなく、食への関心や給食の時間の楽しさにつながるよう、味や見た目にも配慮した魅力ある給食としていくことが重要と考えますが、市の認識を伺います。</p> <p>(2) 5年ごとに実施している「稲城市学校給食アンケート」では、児童生徒の学校給食に対する意見、献立の嗜好や摂取状況などの実態を把握して、献立の作成や、食育指導の参考にすることを目的にしていると聞いています。</p> <p>令和5年3月に公表されたアンケート結果では、大半が「おいしい」「まあまあおいしい」との回答でしたが「あまりおいしくない」「おいしくない」という意見も一定数ありました。</p> <p>そこで、一定数あった「あまりおいしくない」「おいしくない」に対し、この間、市としてどのように取り組んできたのか伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(3) 学校給食は、児童生徒の健康な体作りのために必要な栄養をバランスよく摂取する機会でもあります。必要な量をきちんと食するうえでは、味や見た目も大切ですが、前提として「安全・安心」であること、また、栄養バランスがとれていることも、重要であると考えます。そこで、安全・安心な学校給食を提供するための市の取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>特定外来生物に指定されている植物等による公園・緑地への影響と対応について</p> <p>本市は、多摩丘陵の里山や三沢川、大丸用水といった水辺空間、市民の憩いの場であり、子供たちの貴重な遊び場、さらには地域の防災拠点としても重要な役割を担う公園・緑地など、魅力ある都市景観を有しています。</p> <p>しかしながら、近年、日本各地では特定外来生物に指定されている植物や生態系に影響を及ぼすおそれがある外来植物の拡大が深刻であり、本市においても在来の植物への影響や、公園・緑地等の維持管理上の課題につながる可能性が危惧されます。</p> <p>本市では、令和5年3月に策定した「第三次稲城市環境基本計画」において、生物多様性の保全として、「外来種の移入・生息防止対策の推進」が掲げられています。</p> <p>そこで、本市の公園・緑地における特定外来生物に指定されている植物等の発生状況、維持管理への影響及び対応について伺います。</p> <p>(1) 市内の公園・緑地における特定外来生物に指定されている植物等について伺います。</p> <p>(2) 特定外来生物に指定されている植物等が公園・緑地の維持管理に及ぼす影響について伺います。</p> <p>(3) 特定外来生物に指定されている植物等を確認した場合の市の対応について伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
2	公 明 党	つ の じ 寛 美

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	HPV 感染症予防接種の取組について (1)女子を対象とした定期接種の直近 3 年間の実績について伺います。 (2)女子を対象とした定期接種の周知啓発について伺います。 (3)男性を対象とした接種費用助成制度の稲城市と周辺他市の状況について伺います。	
2	妊娠期から安心できる未来を支えるために (1)出産期から育児期の支援の状況について伺います。 (2)低出生体重児等支援の内容について伺います。	
3	こどもの自殺対策推進パッケージについて こどもの自殺をめぐる深刻な状況に対処するため、こどもの自殺対策緊急強化プランや改正自殺対策基本法を踏まえ、関係省庁一丸となり、関連事業・支援策を総合的に推進していく必要があります。 こどもの自殺対策の実施に様々な機関や団体が関わる中で、関係機関や団体の連携・協働により連動性を持って取り組まれるべき施策を「こどもの自殺対策推進パッケージ」としてとりまとめてあります。 その中で、地方自治体において自殺対策が地域を問わず着実に行われるよう底上げを図るとあります。 (1)教育や普及啓発等について	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	①SOS の出し方に関する教育・自殺予防教育の促進の取組について伺います。	
	②稲城市によるゲートキーパー養成研修の実施について伺います。	
	③「心の健康」に関する指導の着実な実施、啓発資料の周知について伺います。	
	(2) リスクの早期発見・対応について	
	① 1人1台端末等を活用した「心の健康観察」について伺います。	
	②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実について伺います。	
	(3) 危機介入について	
	①こども・若者の自殺危機対応チームによる支援者支援の取組について伺います。	
	②地域ネットワーク構築によるこども支援の取組について伺います。	
4	生命（いのち）の安全教育について 公明党の竹谷代表は、子どもや若者を性犯罪の加害・被害者にさせないため「有効な手だては生命の安全教育を学校教育の中でしっかりと実現していくことだ」と強調しています。	
	(1) 小学校の生命の安全教育の取組について伺います。	
	(2) 中学校の生命の安全教育の取組について伺います。	
5	マンツーマン中学校オンライン英会話レッスンについて 稲城市は、全小中学校にALTを導入し、中学2年生全員に英会話Web個人レッスンを推進してお	

通告番号	会 派 名	氏 名
3	日本共産党	山岸太一

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>中東情勢の混乱による燃料不足・原料不足による影響から市民のくらしと営業を守る対策について</p> <p>アメリカとイスラエル政府によるイラン攻撃を契機とした中東情勢の混乱が、日本の経済や市民のくらしにも大きな影響を与えています。燃料不足による物価高騰や、ナフサ等の原料不足による事業活動の停滞は深刻です。市民のくらしと市内事業者の事業や雇用を守るために、稲城市が役割を果たすことを求める立場から質問します。</p> <p>(1) 市民の暮らしへの影響について</p> <p>①現在起きている燃料不足や原料不足が市民の生活に及ぼしている影響について認識を聞きます。</p> <p>②稲城市のごみ指定収集袋の供給状況について聞きます。</p> <p>③学校給食の食材の確保状況について聞きます。</p> <p>④稲城市立病院の医療活動への影響について聞きます。</p> <p>(2) 市内の建設事業者への影響について</p> <p>①現在起きている燃料不足や原料不足が市内の建設事業者に及ぼしている影響について認識を聞きます。</p> <p>②稲城市が発注施工している建設工事への影響について聞きます。</p> <p>(3) 燃料不足や原料不足による影響から、市民のくらしと事業者の営業を守るために対策を実施していくことについて市長の認識を聞きます。</p>	<p>市長答弁を 求める</p>

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>誰もが安心して利用できる介護保険制度の実現に向けて</p> <p>次期の介護保険事業計画に向けて介護保険法の改正が国会で議論されています。介護保険制度のもともとの理念である、誰もが同じサービスを受けることができる制度の維持を求める立場から質問します。</p> <p>(1)「特定地域サービス」「特定地域居宅サービス等事業」の概要について聞きます。</p> <p>(2)内閣府「規制改革推進に関する中間答申」の「2-オ 地域の実情に応じた介護サービス提供体制の見直し」において、「特例介護サービス」の対象範囲について述べられている内容を聞きます。</p> <p>(3)介護保険制度の原則として、どの地域に住んでいても一律のサービスが受けられる制度の維持が求められると考えますが認識を聞きます。</p>	
3	<p>市民の交通の権利と移動の自由を保障し、市民の足となるバスにしていく取り組みについて</p> <p>(1)路線見直し後の状況について</p> <p>①4月・5月のコース毎の乗降実績について聞きます。</p> <p>②市民・利用者から寄せられている要望や意見について聞きます。</p> <p>(2)市民から寄せられた緊急の改善要望について</p> <p>①Aコースの運賃支払い時のIC化対応の見直しについて聞きます。</p> <p>②Cコースの若葉台駅への延伸について聞きます。</p> <p>③Cコースの運行方向を一方通行ではなく、右回り路線と左回り路線を組み合わせることについて聞きます。</p> <p>(3)今後の地域公共交通会議の開催予定について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p data-bbox="332 264 1266 340">市民の家計負担増となる下水道料金の値上げの中止について</p> <p data-bbox="332 392 1266 555">東京都による各自治体への下水道負担金の増額に伴い、市が下水道料金の見直しを検討しています。物価高騰が続く中で、さらなる負担増となる下水道料金の値上げに反対する立場から質問します。</p> <p data-bbox="348 600 1266 676">(1) 下水道使用料金見直しの検討状況について聞きます。</p> <p data-bbox="348 721 1266 797">(2) 家計の負担増となる下水道使用料金の値上げは行うべきではないと考えますが認識を聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
4	稲 志 会	川村 あや

項目番号	質 問 要 旨	概要
1	庁舎内での公民連携の更なる活用について	
	<p>本市では、令和5年10月1日に公民連携デスクが設置され、より良い活用を求め何度となく一般質問させていただいています。この取り組みは単に民間事業者との連携先を増やすことにとどまらず、行政課題の解決手法そのものを広げ、職員の方々にとっても、従来の行政手法にとらわれない新たな発想や価値観を取り入れる契機になっているものと受け止めています。実際に、提携先や連携事例が増えていて新たな情報が入ってきています。</p> <p>しかし一方で、件数が増えていること自体が目的ではなく、重要なのは、それが市民サービスの向上にどう結びついたのか、また庁内にどこまで定着しているのかという点です。そこで、本市の公民連携の現状と課題そして今後の展開について質問させていただきます。</p>	
	(1)公民連携による自動販売機の設置について	
	①設置台数と内容について伺います。	
	②自動販売機を選定する際の市の考え方について伺います。	
	③庁舎内に AED 付自動販売機や熱中症対策飲料またセブン自販機などの災害時の食料確保・売り上げの一部を寄付・身近な買い物環境のサポート等、公民連携を活用した今後の取り組みについて伺います。	
	(2)食堂について	
	①現状について伺います。	
	②事業者を選定する際の市の考え方について伺います。	
	③地域の飲食店とのコラボレーションや地産地消メニュー推進、また子ども食堂・誰でも食堂の定期的な開催等公民連携を活用した今後の取り組みについて伺います。	

	(3)民間カフェ・ベーカリーの誘致について	
	①庁舎内に障害のある方が働くことのできる場を創出する取り組みとして、民間カフェ・ベーカリーを誘致することについて、市の考え方を伺います。	
	(4)設置型食堂について	
	①設置型食堂の導入について市の考えを伺います。	
	②公民連携を活用した今後の取り組みについて伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	稲城市立病院のあり方について	
	<p>現在、地域医療を取り巻く環境は、物価高騰や医師・看護師等の人材不足、医療ニーズの多様化などにより、一段と厳しさを増しています。稲城市の基幹病院である稲城市立病院の経営についても同様の問題があり、最重要課題であると思います。病院においては、令和7年度に稲城市立病院経営強化プランの大きな修正が行われ、令和9年度までの単年度収支黒字化に向け、病床を290床から221床へと一時休止（ダウンサイジング）する激変を伴う構造改革へと舵が切られました。経営の効率化・スリム化は財政健全化のために不可欠な決断であると理解する一方、これが市民に対する医療提供体制の縮小や、公立病院としての役割の低下に繋がってはならないと思います。行政と市民の双方が現状と危機感を正しく共有して、納得感を持ってこの改革を進めるため、また、今後も市民に選ばれる病院であろうとし続ける為にはどのようにしていくのか質問させていただきます。</p>	
	(1)病床の一時休止（ダウンサイジング）に伴う地域医療への影響と稼働率向上について	
	①現状について伺います。	
	②課題について伺います。	
	③今後について伺います。	
	(2)急性期から回復期等への機能転換と人員配置の適正化について	
	①現状について伺います。	
	②課題について伺います。	
	③今後について伺います。	
	(3)市民への正しい情報発信と利用率向上（選ばれる病院づくり）について	
	①現状について伺います。	
	②スマートフォンから予約や待ち時間の確認ができるシステムの導入について伺います。	
	③今後について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	小中学校プール授業のあり方について	
	<p>全国の公立小中学校において、従来の学校の屋外プールで夏に水泳授業を行うスタイルは、いま大きな転換期を迎えていると思います。かつては当たり前だったこの仕組みが、近年の気候変動（猛暑）、施設の老朽化、そして教職員の負担増という大きな壁にぶつかっているからです。近年の日本の夏は猛暑日が常態化していて、環境省が発表する暑さ指数（WBGT）やプールサイドの気温、水温が基準値（一般的に水温＋気温が65℃以上など）を超えると、熱中症リスクを避けるために水泳授業を中止せざるを得ません。結果として、予定していた時間数をまったく消化できなかったというケースが全国で相次いでいます。現在、プール授業の民間委託や屋内プールへの改修等への移行が他地域では進んでいます。稲城市でも同様の課題がある事から質問させていただきます。</p>	
	(1)プール授業の現状について	
	①課題について伺います。	
	②維持管理費について伺います。	
	③今後について伺います。	
	(2)プール授業の民間委託について	
	①市の考えについて伺います。	
	②課題について伺います。	
	③今後について伺います。	
	(3)市民プールの屋内施設への改修および活用について	
	①市民プールの現状（利用状況・維持管理費）について伺います。	
	②屋内改修への課題について伺います。	
	③プール授業での活用について伺います。	
	④今後について伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
5	新政会	角田 政信

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>高齢者の孤立、孤独に対してみどりクラブの果たす役割について</p> <p>昨今、高齢化の進展や家族関係の希薄化などにより、高齢者の孤立、孤独が社会問題となっています。</p> <p>国の推計によれば、2050年には高齢者の約3～4人に1人、1,084万人が一人暮らしになるといわれております。</p> <p>みどりクラブの活動を通じて高齢者の孤立、孤独を防ぎ、高齢者の社会参加を促進する観点から質問します。</p> <p>(1)稲城市における高齢者数及び高齢化率、みどりクラブ会員数、加入率の推移について伺います。</p> <p>(2)みどりクラブの活動内容及びそれに対する市の評価について伺います。</p> <p>(3)みどりクラブの会員増強に向けた市の取り組みについて伺います。</p> <p>(4)高齢者の孤立、孤独の防止に対して、みどりクラブが果たす役割について、市の認識を伺います。</p>	
2	<p>第二次稲城市再犯防止推進計画について</p> <p>稲城市は昨年改めて、刑法犯認知件数が人口1,000人当たりで、東京都で最も少ない市となりました。うれしい限りです。</p> <p>しかし、日本一安全安心なまちを目指しとて言い続けてきた私としてはまだまだ満足していません。更なる安全安心なまちとなるために、今後何をしたら良いのだろうかと考えたとき、それがまさにこの再犯防止推進計画なのです。一度罪を犯してしまうと立ち直りが難しい。家族関係や学校、勤務先などにも影響が及ぶ。そして地域で生きづらくなる。これを何とかしないと再犯者数は減らないと考えます。</p> <p>(1)計画の概要について、策定の経緯や前回計画からの変更点について伺います。</p> <p>(2)日野・多摩・稲城3市共通理念について、3市で理念を共通化した目的について伺います。</p> <p>(3)前回計画時からの、再犯率及び再犯者数の推移について伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
6	稲志会	中島 健介

項目 番号	質問要旨	摘要
1	<p>市の財政について</p> <p>近年、我が国を取り巻く経済環境は大きく変化しており、とりわけ物価高騰、中でも建設資材価格の著しい上昇は、地方自治体の財政運営において無視できない深刻な課題となっています。本市が将来にわたって持続可能な行政サービスを提供し、市民の安全・安心を守り続けるためには、強固で健全な財政基盤の確立が不可欠であり、中でも特定の財政需要や将来の不測の事態に備えるための「基金」は、まさに市財政の砦とも言える極めて重要な役割を担っていると考えます。</p> <p>しかし、昨今の急激なインフレは、蓄えられた基金の実質的な価値を目減りさせ、将来の事業計画に大きな影響を及ぼす懸念をはらんでいます。また、災害や急激な景気変動に対応する「財政調整基金」をはじめ、各基金が現在どのような状況にあり、地方自治法に基づき、いかに確実かつ効率的に運用されているのか、さらには基金条例に基づく繰替運用の実績も含めた管理実態を把握することは非常に重要だと考えます。</p> <p>そこで今回の一般質問では、本市における各基金の現在高や目的、運用の成果について確認にするとともに、物価上昇による庁舎建設基金などの将来的な目減りリスクへの認識を伺います。</p> <p>また、本市の財政の砦である財政調整基金の残高が、今後の不透明な社会情勢において本当に適正な水準であるのか、市の見解と今後の財政運営に対する基本的な考え方を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(1) 令和8年3月31日時点での、市の基金別の現金等現在高について伺う。	
	①財政調整基金の現金等現在高について伺う。	
	②庁舎建設基金の現金等現在高について伺う。	
	③公共施設整備基金の現金等現在高について伺う。	
	④緑化推進基金の現金等現在高について伺う。	
	⑤長寿社会福祉基金の現金等現在高について伺う。	
	(2) 各基金の目的について伺う。	
	①財政調整基金の目的について伺う。	
	②庁舎建設基金の目的について伺う。	
	③公共施設整備基金の目的について伺う。	
	④緑化推進基金の目的について伺う。	
	⑤長寿社会福祉基金の目的について伺う。	
	(3) 各基金条例の第5条において、「市長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰り戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。」とありますが、財政上必要があると認めるときとはどのようなときであるのか伺う。	
	(4) 各基金の令和8年2月28日時点の現金等保管状況を伺う。	
	(5) 地方自治法第241条2項に基づいて、確実かつ効率的に運用がされていると思いますが、運用についての市の考えを伺う。	
	(6) 令和8年度予算における各基金の運用成果の見込み額について伺う。	
	(7) 物価上昇が続く昨今、とりわけ建設資材価格の上昇が著しい中で、建設に充てるための庁舎建設基金の将来的な目減り額は非常に大きなものになると考えているが、市の考えを伺う。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(8)市の財政調整基金残高は適正であるのか、市の考えを伺う。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
7	無 所 属	村 上 洋 子

項 目 番 号	質 問 要 旨	摘 要
1.	<p>学校や子ども施設での香害や化学物質の曝露から子どもを守るためにできることについて</p>	
	<p>学校や子ども施設は、日中、子どもたちが最も長く過ごす場であり、安全で安心していられることが求められます。</p> <p>建材や教材、衣服などから発生する化学物質のために、健康に不調をきたすことの無いよう、環境を整える必要があります。</p> <p>自治体として環境整備のためにできることについて、最大限の努力が必要と考え質問いたします。</p> <p>(1) 市立学校の保健室や担任への相談、子ども施設（保育園、幼稚園、子ども園、学童クラブ、児童館等）への相談において、建材や教材、他の人の衣服の匂いや化学物質の影響で体調不良になるとの相談があるかについて伺います。</p> <p>(2) 香害や化学物質から子どもを守るために、現在行っている取り組みについて伺います。</p> <p>(3) 今後の取り組みについて伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2.	<p>離婚後共同親権・養育費・親子交流等の民法改正の施行で自治体に対応すべきことについて</p>	
	<p>2024年（令和6年）5月に成立した民法等改正法は、父母が離婚した後も子どもの利益を確保することを目的として、こどもを養育する親の責務を明確化するとともに、親権、養育費、親子交流などに関するルールが見直され、2026年（令和8年）4月1日より施行されました。</p> <p>改正に伴い、子どもの最善の利益を守る観点に立ち、自治体として整備すべき内容について確認をするために質問をいたします。</p> <p>(1) 離婚後共同親権の施行を受け、市としてどのような準備を進めているかについて伺います。</p> <p>① 市として共同親権家庭をどのように把握するのかについて伺います。</p> <p>② DV 被害者保護との整合性について、どのように整理しているかについて伺います。</p> <p>(2) 離婚後共同親権が影響する行政事務にはどのようなものがあるか、親権者両方の確認が必要になるのはどのような事務かについて伺います。</p> <p>① 住民票等の手続き関係では、転入・転出、居所の異動、マイナンバーカードの申請、パスポート申請等について。</p> <p>② 福祉関係では生活保護、障害福祉手当等について。</p>	

③ 子育て関係では、児童手当、医療費助成、保育所の入所・退所、学童クラブの利用申請、ひとり親家庭支援等について。

④ 教育関係では、就学・転校手続き、特別支援教育に関する同意書、長期欠席や不登校支援に関する保護者対応、進路相談・決定に関すること、成績表の開示や授業参観へ参加、就学援助等について。

⑤ 医療関係では、予防接種、手術や治療への同意書、医療情報の提供範囲等について。

⑥ 共同親権において両方の親権者の同意が得られない場合の自治体の対応について伺います。

⑦ 共同親権の施行に伴う自治体事務の課題について伺います。

⑧ 今後の取り組みについて伺います。

(3) 法定養育費、養育費の確保支援について伺います。

① 法定養育費の請求から支給までの流れについて伺います。

② 法定養育費の請求・養育費の取り決めに対して自治体としてできる支援は何があるか伺います。

③ 課題と今後の取り組みについて伺います。

(4) 親子交流支援について自治体ができることについて伺います。

① 引き渡し支援、第三者の立ち会い、交流場所の提供、オンライン面会支援などが考えられますが、市としてどのような支援ができると考えているか伺います。

② 親子交流を子ども本人が望んでいるかなど、子どもの意向を聞き取るための子どもアドボケートの支援や、子ども本人が親子交流などについて相談できる相談窓口の明確化が必要だと考えますが、市の認識について伺います。

(5) 離婚後共同親権について、子どもの最善の利益を守る視点から、庁内横断的な研修が必要と考えますが、市の認識を伺います。

(6) 離婚後共同親権のスタートにあたり、子どもの最善の利益を守る視点から、共同親権に関する相談窓口の明確化、市民への周知、ガイドラインやチェックリストを活用した庁内連携等が大変重要になると考えますが、市の認識と今後の取り組みについて伺います。

通告番号	会派名	氏名
8	公明党	佐藤しんじ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>私立小中学校に通う家庭への学校給食費の負担軽減について</p> <p>長期化する物価高騰は、子育て世帯の家計に大きな影響を及ぼしており、とりわけ食費や教育費の負担増は深刻な課題となっております。そのような中、学校給食費の支援は、子育て世帯への重要な支援策の一つであり、公立小中学校に通う児童・生徒の保護者からは、大きな安心につながっているとの声をいただいています。一方で、私立小中学校へ通う児童・生徒の保護者からは、「私立に通わせていても、家計負担は決して軽い。」「子育て支援の観点から、一定の配慮を求めたい。」といったご意見やご要望を伺っています。</p> <p>(1)本市において、私立小中学校へ通学している児童・生徒数、また進学状況について、市ではどのように把握しているのか伺います。</p> <p>(2)東京都は令和8年度予算において、私立小中学校に通う児童・生徒の保護者の負担軽減を図るため、区市町村が給食費相当額を支給する場合、その経費の2分の1を補助する制度を創設したと認識しておりますが、本制度の概要及び目的について、市の認識を伺います。</p> <p>(3)子どもの成長を社会全体で支えていく観点からは、公立・私立を問わず公平に、子育て世帯に寄り添った支援を検討していくことが必要であると考えます。そこで、私立小中学校へ通う家庭への給食費相当額の支援について、稲城市として研究・検討していく考えはあるのか、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="337 318 1176 407">災害時に指定避難所となる市内公共施設におけるトイレの洋式化について</p> <p data-bbox="337 465 1176 1079">公共施設等におけるトイレ環境の改善については、利用者の利便性だけでなく、高齢者や障がいのある方への配慮、さらには災害時の避難所運営の観点からもその重要性が高まっております。公共施設利用者のご高齢の市民の方から、「和式トイレが使えず、洋式トイレを待つ時間が長くなる。」との声を伺っています。高齢化が進む中、和式トイレの利用が困難な方も増えており、限られた洋式トイレに利用が集中する状況があるのではないかと思います。平常時においてそのような状況がありますと、指定避難所となる市内公共施設の災害時においては、トイレ利用に大きな混乱が生じることが懸念されます。そのことから、残存する和式トイレの洋式化を、優先的かつ計画的に進めることは重要であると考えます。</p> <p data-bbox="337 1137 1176 1227">(1)指定避難所となる市内公共施設における洋式トイレ及び和式トイレの設置状況について伺います。</p> <p data-bbox="337 1285 1176 1464">(2)災害時の避難所運営においては、高齢者をはじめ、和式トイレの利用が困難な避難者も想定されます。指定避難所に和式トイレが残存している現状について、市の認識を伺います。</p> <p data-bbox="337 1523 1176 1702">(3)指定避難所となる市内公共施設については、避難所環境の向上及び避難者の負担軽減の観点から、残存する和式トイレの洋式化を、優先的かつ計画的に進める必要があると考えますが、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>多文化共生社会の実現について</p> <p>昨今の外国人住民の増加に伴い、地域社会の多様化が進む一方で、言葉や文化、生活習慣の違いから、地域における様々な課題も指摘されております。全国各地では、生活ルールや地域コミュニティをめぐる課題が顕在化している事例も見受けられており、稲城市においても将来的な課題として、早期の対応が求められるものと考えます。多文化共生社会を実現するためには、外国人住民への適切な支援を行うとともに、日本の生活習慣や、地域におけるルールについて丁寧に共有し、相互理解を深めていくことが重要であると考えます。</p> <p>(1)市内における外国人住民数の推移について伺います。</p> <p>(2)現在行っている、外国人住民等への支援や取組等について伺います。</p> <p>①外国人来庁者が手続き等を行う際の窓口での支援について伺います。</p> <p>②文化や生活習慣の違いによる地域住民間に生じるトラブル、とりわけ、ゴミ出しに関するトラブルを未然に防ぐための取組について伺います。</p> <p>③外国人児童・生徒の日本語指導や学校生活での支援について、教育現場ではどのような対応を行っているのか伺います。</p> <p>④「外国人のための日本語教室」の概要、目的について伺います。</p> <p>(3)多文化共生社会の実現について、市の認識を伺います。</p> <p>(4)今後、外国人住民の増加や地域社会の多様化が進む中、多文化共生社会の実現に向けて、市としてどのような方針で取組を進めていくのか、その考え方について伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
4	<p data-bbox="341 331 1083 367">次世代への平和の継承に向けた取組について</p> <p data-bbox="341 427 1177 1137">近年、世界各地で紛争が続く中、平和の尊さについて改めて考える機会が増えています。また、戦後80年が過ぎ、戦争や被爆を直接体験された方々の高齢化が進む中、その記憶や思いを、どのように次世代へ継承していくのかについては、全国的な課題であると思います。そのような中、一昨年、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞し、長年にわたり被爆の実相や核兵器廃絶の重要性を訴え続けてきた活動が世界的に高く評価されました。そして本市には、胎内被爆者として長年平和活動に尽力され、現在、日本原水爆被害者団体協議会の事務局長を務められている濱住治郎氏がお住まいです。濱住氏の貴重な経験や知見を、学校教育や生涯学習の場において活かしていくことは、平和の尊さを次世代へ伝える上で大変意義のある取組であると考えます。そのことを踏まえ、本市における、次世代への平和の継承に向けた取組について伺います。</p> <p data-bbox="341 1198 1177 1279">(1)現在、市立小中学校において実施されている平和教育について伺います。</p> <p data-bbox="341 1339 1177 1570">(2)戦争体験者の高齢化が進む中、平和の尊さや戦争の悲惨さを次世代へ継承していくことは、今後ますます重要になるものと考えます。そこで、市立小中学校における平和教育の更なる充実に向け、今後どのように進めていく考えか伺います。</p> <p data-bbox="341 1630 1177 1951">(3)平和教育においては、実際に戦争や被爆を体験された方、あるいは平和活動に取り組まれている方から直接話を伺うことが、子どもたちにとり、平和の尊さをより身近に感じ、深く考える貴重な機会になるものと考えます。そこで、市立小中学校における平和教育の更なる充実に向け、濱住治郎氏をお招きした講話や平和学習など、児童・生徒が直接学ぶ機会の創出について、市の見解を伺います。</p> <p data-bbox="341 2011 1177 2047">(4)本市では、市民が様々な分野について学ぶ機会として「生</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>生涯学習宅配便講座」を実施しております。濱住治郎氏による被爆体験や平和への思いは、児童・生徒のみならず、多くの市民にとっても大変貴重な学びになるものと考えます。そこで、平和意識の醸成や、次世代への継承を図る観点から、濱住治郎氏による平和学習や講話を、生涯学習宅配便講座のメニューとして登録し、市民が平和について学ぶ機会の充実を図ってはどうかと考えますが、市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会派名	氏名
9	新政会	梶浦みさこ

項目番号	質問要旨	摘要
1	<p>学校・市公共施設のトイレ環境の向上について</p> <p>安心安全で快適に利用できるトイレ環境のさらなる向上により市民の利便性を高めていただきたいと考え質問します。</p> <p>(1) 女児・女性用トイレの行列解消対策について</p> <p>令和7年6月閣議決定「経済財政運営と改革の基本方針 2025」に女性用トイレの利用環境の改善に向けた対策の推進が位置付けられました。</p> <p>特に女児・女性が外出先の施設や、学校やイベントでの一斉休憩時のトイレ利用にあたって「行列に並ばなければならないこと」に対して不便・不満・不安を感じている方が大変多いことから、「トイレ設置数の基準と適用のあり方に関するガイドライン(案)」を国土交通省が令和8年3月に策定・公表し、今後、女児・女性用トイレの行列解消対策が図られていくことと考えます。</p> <p>市立小中学校や市公共施設等におけるトイレの待ち時間が男女共に同じ位となるよう配慮した「トイレ設置数と適用のあり方」に関する市の見解と、今後の施設改修時において女児・女性用トイレの行列解消対策を図って行くことについて伺います。</p> <p>(2) 男性用トイレのサンタリーボックスの設置について</p> <p>前立腺がんなどの治療の影響や高齢に伴う尿漏れ等の対応のため、衛生用品を利用し外出される男性が増加傾向にあるとのことです。男性用トイレで尿漏れパッド等の衛生用品を交換する機会に対応し、男性用トイレにサンタリーボックスを設置することは、市公共施設を</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>利用する市民の利便性向上につながることを考えます。</p> <p>市公共施設の男性用トイレへのサンタリーボックスの設置状況と、設置に関する認知度を高め、設置を推進することについて伺います。</p>	
	<p>(3)学校・市公共施設の個室トイレの仕切り壁のハイパーテーション化について</p> <p>覗き見や盗撮等を防止し、一人ひとりが安心して利用できるよう男性用・女性用トイレのそれぞれの個室トイレの仕切り壁を天井まで隙間なく設置するハイパーテーション化又はフルハイトブース化により、児童・生徒や市民のプライバシー保護とセキュリティ向上を図っていただきたいと考えます。</p> <p>小中学校・市公共施設等の男女それぞれの個室トイレの仕切り壁の状況と、今後の施設改修時に個室トイレの仕切り壁をハイパーテーション化又はフルハイトブース化することについて伺います。</p>	
2	<p>アフター更年期(更年期後不調)対策の啓発と骨粗しょう症検査の拡充について</p> <p>閉経に伴うエストロゲン(女性ホルモン)の急激な低下により、更年期世代の女性は骨密度が著しく低くなる傾向が顕著であるとのこと。骨粗しょう症は自覚症状が少ないため、更年期を境に骨粗しょう症の危険性が高まっている状態に陥っているにもかかわらず、それに気付かず高齢期を迎え、転倒による骨折等のリスクが高まることは、女性の健康課題に直結する問題であると考えます。</p> <p>健康寿命と平均寿命の差は日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味するとされています。令和7年版厚生労働白書によると、令和4年の平均寿命は男性81.05歳・女性87.09歳、健康寿命は男性72.57歳・女性75.45歳。その差は男性が約8年、女性が約12年と長くなっています。特に女性の健康課題を改善し、その差を縮小</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>することは持続可能な社会の実現と市民のウェルビーイングの向上につながることを考え質問いたします。</p>	
	<p>(1)稲城市立病院の骨粗しょう症ドックについて 稲城市立病院が実施している人間ドックの専門ドック「骨粗しょう症ドック」について、主な対象者・定員、コースの特徴と料金、実施日・所要時間・受付時間、募集方法と申込手続、検査内容等について伺います。</p>	
	<p>(2)稲城市立病院の骨粗しょう症ドックの受診者の状況と実績について 令和7年度の骨粗しょう症ドックの受診者の状況について、性別・年齢層別の受診者数・要指導者数・要精密検査者数、要指導者や要精密検査者の方々を外来診療につなげた実績等について伺います。</p>	
	<p>(3)市の骨粗しょう症予防検診について 健康づくり推進事業の「骨粗しょう症予防検診」は健康増進法第19条の2に基づき実施されていることと思います。骨粗しょう症予防検診の対象者・定員、費用、会場・実施日・受付時間・所要時間、募集方法と申込手続、検査内容等について伺います。</p>	
	<p>(4)令和8年度の骨粗しょう症予防検診の対象者となる総人数と年齢別の人数について伺います。</p>	
	<p>(5)骨粗しょう症予防検診の直近5年間の受診率と受診者数の推移について伺います。</p>	
	<p>(6)令和7年度の骨粗しょう症予防検診の各年齢層別の受診率と受診者数・要指導者数・要精密検査者数について伺います。</p>	

	質 問 要 旨	
	<p>(7)令和 7 年度の骨粗しょう症予防検診時の健康相談(栄養相談)の相談者数と相談日数と具体的な主な相談内容について伺います。</p>	
	<p>(8)アフター更年期(更年期後不調)対策として骨粗しょう症予防検診の受診啓発について</p> <p>エストロゲン(女性ホルモン)には、破骨細胞による骨吸収(古い骨を壊してカルシウムを溶かし出すこと)のスピードを緩やかに抑える重要な働きがあります。閉経に伴う更年期のエストロゲン(女性ホルモン)の減少により、破骨細胞が増加し、骨の形成が追いつかず骨密度の低下を招き、更年期後、急激に骨が脆くなってしまう可能性が高まるとの事です。</p>	
	<p>50 歳前後の約 10 年間とされる更年期は骨粗しょう症の分岐点となることから、その期間に骨粗しょう症予防検査の受診により、骨量減少者の早期発見による骨密度低下を未然に防ぎ、更年期後不調や高齢期の転倒骨折等の予防につながることを考えます。</p>	
	<p>アフター更年期(更年期後不調)対策の一助として骨粗しょう症予防検診は大変有効な手段であると考え、対象となる多くの女性市民に骨粗しょう症予防検診を受けていただけるよう、その重要性を広く PR し受診啓発を推進することについて市の見解を伺います。</p>	
	<p>(9)骨粗しょう症予防検査の拡充について</p> <p>高齢になるほど骨粗しょう症は発症しやすく、特に女性は男性と比較すると約 3 倍発症する割合が高くなっているとのことです。女性の健康寿命を伸ばすことができるよう、骨粗しょう症予防検査の機会を増やし、市民のウェルビーイングを高めていただきたいと思います。稲城市立病院の骨粗しょう症ドック費用の負担軽減助成や、市の骨粗しょう症予防検診の日数増・定員拡大などにより、骨粗しょう症予防検査の拡充を図ることについて市の見解を伺います。</p>	

	質 問 要 旨	
3	<p>年金相談員による若葉台出張所での年金相談について</p> <p>第五次稲城市長期総合計画では「日本年金機構と連携を図りながら、国民年金制度の普及・啓発活動を進めるとともに、きめ細やかな年金相談等を通じ、制度の周知に努めます。」とされております。</p> <p>ニュータウン3地区の近年の急激な高齢化の値は、稲城市地域包括ケア計画(稲城市高齢者福祉計画(第4次)・稲城市介護保険事業計画(第9期))の「地区別高齢者比率【65歳以上人口割合】」において、令和12年(推計)は、1位向陽台 38.5%、2位長峰 37.3%、3位若葉台 30.5%、令和22年(推計)は1位若葉台地区 51.6%となることが予測されております。</p> <p>国民年金に関する受給資格や請求などに関する相談について、ニュータウン地域、特に今後高齢化率が市内1位となる若葉台地区の方々の需要が高まることが予想されることから、現在、本庁舎と平尾出張所で行われている年金相談を拡充し、若葉台出張所での年金相談員による年金相談を実施していただきたいと考え、市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
10	日本共産党	岡田まなぶ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>市内路線バスの維持・拡充について</p> <p>(1) 稲城駅（向陽台、長峰経由）－若葉台駅路線、稲城駅－聖蹟桜ヶ丘駅路線のバスを増便して元に戻してほしいという声が、引き続き寄せられている。路線バスは暮らしに欠かせない地域公共交通です。バス事業者を増便を求めるべきと考えるがあらためて認識は。</p> <p>(2) 東京都は持続可能な地域公共交通を維持・確保する取り組みを令和8年度予算化している。主な内容および東京都が路線バスを維持していくための支援を前に進めてきたことは重要と考えるが認識は。</p> <p>(3) 武蔵野市はバス運転手不足を解消するため、令和8年度からの3年間で「緊急採用支援期間」として、バス事業者の採用活動を集中的に支援し、地域の足を確保する事業を実施している。稲城市でも、バス運転手確保の支援を検討すべきと考えるが認識は。</p> <p>(4) バス運転手の賃金を引き上げ、待遇改善を国や東京都の支援強化で進めることが求められていると考えるがあらためて認識は。</p> <p>(5) 路線バスを地域公共交通として維持・拡充するために、バス事業者の独立採算の考え方を転換して、国、東京都が財政支援を強化していくべきと考えるが認識は。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>市立公園トイレの洋式化の推進について</p> <p>市立公園トイレの洋式化を求める声が寄せられており質問する。</p> <p>(1) トイレのある市立公園ごとの男性・女性トイレの洋式の有無は。</p> <p>(2) 市立公園トイレの洋式化を進めていくべきと考えるが市の基本姿勢は。</p> <p>(3) 大丸公園は保育園のお散歩で子どもたちが訪れ、複合遊具(車椅子対応型)、健康増進を目的とした健康遊具もあり、高齢者も多く利用している。公園利用者から、男性・女性トイレの洋式化を求める声が寄せられている。洋式化を早期に進めるべきと考えるが市の認識は。</p>	
3	<p>国民健康保険の子どもに係る均等割保険税の負担軽減、廃止について</p> <p>(1) 国民健康保険の子どもに係る均等割保険税の軽減の状況は。</p> <p>(2) 子育て世代の負担軽減のために、子どもに係る均等割保険税の軽減を拡大し、廃止をめざしていくべきと考えるが認識は。</p>	
4	<p>城山公園龍の池の階段の手すり設置等について</p> <p>城山公園内龍の池の後ろの階段について「手すりがなく、登り降りが大変。階段で転倒して怪我をした方もいる。手すりをつけてほしい」「夜間、街灯はあるが暗がりになる階段部分があり、転倒の危険があるので照明を増やしてほしい」との声が市民から寄せられている。バリアフリーや転倒による怪我防止の観点から手すりの設置および照明の拡充を求めるが認識は。</p>	

通告番号	会派名	氏名
11	公明党	湯谷 ひろし

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>イラン情勢に伴う物価高騰、原油価格高騰の影響と対策について</p> <p>公明党は、イラン情勢に伴う原油価格高騰の影響を把握するため、中道改革連合、立憲民主党とともに令和8年3月27日から4月13日までの期間で、緊急聞き取り調査を行いました。その結果、個人・法人合わせて1万2,000件を超える現場の切迫した声が集まり、生活・事業両面で深刻な影響が顕在化し、迅速な政策対応が必要な状況が浮かび上がってきました。</p> <p>本市においても、物価高騰、原油価格高騰の影響は大きく、その対策は非常に重要です。早期に対策を講じるべきであるとの立場から質問致します。</p> <p>(1) 本市における影響について</p> <p>①市内の中小企業者及び農家への影響について市の認識を伺います。</p> <p>②市の道路整備、建設事業等への影響について伺います。</p> <p>③市立小中学校の給食への影響について伺います。</p> <p>④稲城市立病院への影響について伺います。</p> <p>(2) イラン情勢に伴う物価高騰、原油価格高騰の対策を早期に行うべきであると考えます。市の考えを伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p data-bbox="279 282 947 315">震災時における妊産婦及び乳幼児への支援について</p> <p data-bbox="279 412 1078 891">災害時には日本の乳児死亡率が跳ね上がることが、人口動態統計により分かっております。公益社団法人日本産婦人科医会は、「母子の災害死を防ごうと思うのであれば、病院ではなく地域における防災対策にもっと力点を置くべきである」としてあります。妊産婦が抱えるニーズは幅広く、一人一人の状況によって異なります。妊産婦・乳幼児母子専用避難所を設ける等、更に、個々に応じた支援を提供しやすい環境をつくるべきであるとの立場から質問致します。</p> <p data-bbox="294 981 802 1014">(1) 妊産婦及び乳幼児の避難について</p> <p data-bbox="279 1111 1063 1205">①在宅避難ができない場合や支援が必要な場合等の避難について伺います。</p> <p data-bbox="279 1238 848 1272">②出産直前の妊婦の避難について伺います。</p> <p data-bbox="279 1305 1047 1339">③妊産婦や乳幼児の避難等についての周知方法を伺います。</p> <p data-bbox="294 1429 1063 1462">(2) 避難所等における妊産婦及び乳幼児への支援について</p> <p data-bbox="279 1559 1020 1592">①避難所等における専門的な相談体制について伺います。</p> <p data-bbox="279 1626 1020 1720">②指定避難所に配備されている妊産婦及び乳幼児用の備蓄品及びその量（何人分、何日分）について伺います。</p> <p data-bbox="294 1877 1063 1971">(3) 震災時の妊産婦及び乳幼児向けの支援に関する協力協定締結の状況を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(4) 妊産婦・乳幼児専用避難所を開設にすることについて、 市の考えを伺います。	
3	<p data-bbox="277 477 978 517">トイレカーの災害対応車両登録制度への登録について</p> <p data-bbox="277 607 1067 898">内閣府は、令和7年6月1日から「災害対応車両登録制度(D-TRACE)」をスタートしました。これは、トイレカー等の災害対応車両を所有する自治体等から登録を募り、車両の所在地等の情報をデータベースに一元化し、災害時には被災自治体へ素早く派遣する仕組みです。</p> <p data-bbox="277 925 1067 1149">本市の令和8年度予算には、トイレカー導入事業が盛り込まれましたが、本制度に登録することで、災害時において、より円滑な被災者支援等が実現するとともに、他自治体とのより強固な相互協力体制が構築されるものと考えます。</p> <p data-bbox="277 1238 1067 1339">(1) 令和8年度に市が購入するトイレカーの仕様について、伺います。</p> <p data-bbox="277 1361 1067 1462">(2) トイレカーの災害対応車両登録制度への登録について、市の考えを伺います。</p>	
4	<p data-bbox="277 1552 1063 1592">利用者にも周辺住民にとってもより安全な公園整備について</p> <p data-bbox="277 1682 1063 2029">稲城中央公園総合グラウンド周辺の園路は、ランニングや散歩のコースとして、多くの市民が健康増進のために利用されております。しかし、市民から根上がりや隆起等により、走りづらいとのお話を伺います。また、山崎公園内から子どもが遊んでいたボールが飛び出し、近隣の私有地に侵入したり、車両にぶつかるケースが出ております。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
12	無所属	武田まさひと

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1.	後期高齢社会における孤独死・引取困難事案と尊厳ある弔いについて	
	近年、単身高齢者の孤独死や引取人不在事案、葬祭困難事案が増加しています。また、高齢夫婦世帯や生活保護受給世帯においても、残された家族の病気や認知症等により葬祭対応が困難となる事例が見受けられます。今後さらに高齢化が進む中、亡くなった後の尊厳をどのように守るのかという観点から質問します。	
	(1) 孤独死・引取困難事案の現状について	
	① 稲城市において、単身高齢者の死亡後にご遺体や遺骨等の引取人不在や葬祭対応が困難となる事案について、市はどのように把握し、対応しているのか伺います。	
	② 生活保護受給世帯において、単身世帯のみならず、高齢夫婦世帯や同居世帯で、残された方が重病、認知症、精神疾患、障害、要介護状態等により、引き取りや葬祭対応が困難となる事案について、市はどのように把握し、対応しているのか伺います。	
	(2) 火葬・埋葬まで長期化する課題について	
	① 親族が存在していても、高齢、病気、要介護、遠方居住、経済困窮等により、引き取りや葬祭が進まないケースについて、市としてどのように把握し、対応しているのか伺います。	
	② 安置、搬送、保管等の費用の取扱い、及び東京都の補助制度について伺います。	
	③ 火葬・埋葬まで長期化する事案に対する課題認識について伺います。	
	(3) 生活保護制度と葬祭扶助について	
	① 過去 5 年間の被保護世帯数及び被保護人員の推移について伺います。あわせて、生活保護法に基づく葬祭扶助の利用件数について、過去 5 年間の推移を伺います。	
	② 引取人不在又は引取困難事案について、市が火葬及び遺骨管理を行う場合の基本的な手続きについて伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(4) 今後の制度整備について	
	① 独居化、身寄りがないなどの課題認識について伺います。	
	② 終活支援、死後事務支援、身元保証支援等に関する相談体制及び今後の制度整備について伺います。	
2.	南山東部地区におけるドッグラン整備検討の進捗について	
	令和7年第2回定例会の一般質問において、市からは、南山東部地区内の(仮称)奥畑谷戸公園などでドッグラン設置を検討していくことや、公園整備と併せて検討を進めていくこと、市民参加型の検討体制についても検討していくことなどの答弁がありました。また、稲城南山東部土地区画整理事業については完了が近づいており、公園・緑地等の公共空間整備についても具体化が進む時期に来ていると考えます。一方、昨年の答弁では、ドッグラン整備の課題として、安全面、衛生面、利用時間帯、近隣住宅との距離、運営経費負担などが挙げられておりました。そこで、昨年の質問以降の検討状況と、今後の実現に向けた方向性について伺います。	
	(1) 昨年の答弁後の検討状況について	
	① 昨年の一般質問以降、ドッグラン設置に向けて、市としてどのような検討を進めてきたのか伺います。	
	② (仮称)奥畑谷戸公園を含めた候補地について、その後どのような検討が行われているのか伺います。	
	③ 南山東部地区内の公園整備について、現在どの段階まで検討が進んでいるのか伺います。	
	(2) 市民参加と合意形成について	
	① 昨年答弁のあった市民参加型の検討体制について、その後どのような検討が行われているのか伺います。	
	② 過去の検討において反対意見も多かったとのことですが、その後、市民ニーズや地域住民の意見についてどのように把握しているのか伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	③ 犬を飼育している市民だけでなく、動物が苦手な方や近隣住民との共存について、市はどのように考えているのか伺います。	
	(3) 公共空間における犬のトラブル対策について	
	① 現在、市内でリードを外した犬に関する苦情はどの程度発生しているのか伺います。	
	② 現在の啓発のみで十分と考えているのか、それとも運動空間の整備も必要と考えているのか伺います。	
	③ ドッグランを単なる愛犬家向け施設ではなく、公共空間におけるトラブル防止や住み分け対策として整備する考えについて、市の見解を伺います。	
	(4) 今後の方向性について	
	① ドッグランの整備・運営について、市直営だけでなく、民間事業者への委託や指定管理、公民連携による整備運営の可能性について、市の見解を伺います。	
	② 利用料金制や会員制など、受益者負担による運営手法について、市はどのように考えているのか伺います。	
	③ 他自治体における民間運営型や官民連携型のドッグラン事例について、その後新たな調査・研究を行っているのか伺います。	
	④ 南山東部地区において、仮設型や社会実験型を含めた段階的な導入について検討する考えはあるのか伺います。	

通告番号	会 派 名	氏 名
13	稲 志 会	土居のりひろ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	下水道の点検について	
	<p>令和7年第1回定例会一般質問において、埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故を受け、市内道路における陥没事故防止対策や下水道管路の老朽化対策について質問いたしました。</p> <p>その際、前職において20年以上にわたり設備の予防保全業務に携わってきた立場から、事故が発生してから対応する事後保全ではなく、事故を未然に防ぐ予防保全の重要性について質問いたしました。</p> <p>その後、八潮市での道路陥没事故を受け、国は全国特別重点調査として、管径2メートル以上かつ平成6年度以前に設置された下水道管路について、全国の下水道管理者に対し1年以内の調査及び報告を要請し、その結果が令和8年4月に公表されました。</p> <p>その結果、稲城市では2,489メートルの目視点検調査を実施し、そのうち948メートルについて対策が必要であることが確認されました。</p> <p>今回の特別重点調査により要対策箇所が確認されたことは、市内においても老朽化対策を計画的に進めていく必要性を改めて示したものと考えます。</p> <p>また近年は、集中豪雨や線状降水帯による浸水被害リスクの増大に加え、高度経済成長期に整備されたインフラの老朽化が全国的な課題となっております。</p> <p>道路陥没事故は一步間違えれば人命に関わる重大事故につながるものであり、市民の安全・安心を守るためには、下水道管路をはじめとした都市インフラの予防保全と計画的な補修をさらに推進していく必要があります。</p> <p>そこで、全国特別重点調査の結果及び令和8年度下水道事業予算に計上された「緊急点検に伴う雨水幹線修繕」を踏まえ、今後の見通しについて市の見解を伺います。</p>	
	(1) 全国特別重点調査について	
	① 調査対象となった下水道管路の概要について	
	② 詳細な点検方法や結果について	
	(2) 補修方法及び実施時期について	

	(3) 全国特別重点調査対象外の管径2メートル未満 の下水道管の点検状況について	
--	---	--

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	市内における熱中症対策及び防災機能を備えた公園づくりについて	
	<p>近年、全国各地で地震や豪雨による災害が発生しており、断水時における飲料水の確保が大きな課題となっています。また、猛暑の影響により、熱中症対策も重要な課題となっています。</p> <p>市内の公園施設は、平時においては子供たちや地域住民の憩いの場として親しまれておりますが、災害時には避難場所として活用される重要な公共施設です。</p> <p>しかし、市で整備されている公園によっては、水飲み場や手洗い設備が十分に整備されていない箇所も見受けられます。</p> <p>平時は熱中症対策や衛生環境の向上に寄与し、災害時には応急給水拠点として活用できる給水設備の整備は、公園の機能向上につながるものと考えます。</p> <p>引き続き、近隣の地域住民に親しまれ、いざというときに避難場所として有効に活用するため、公園施設における給水設備等の設置状況及び整備計画について伺います。</p>	
	(1) 市立公園における水道設備の設置状況について	
	(2) 公園利用者、特に子供たちの熱中症対策としての給水環境の考えについて	
	(3) 水飲み場や水道設備が設置されていない公園において、今後の整備を進める考えについて	
	(4) 市内公園に設置されている給水設備のうち、災害時に活用可能な設備について	
	(5) 今後の公園整備において「遊び場」「憩いの場」としての機能に加え、「熱中症対策」「防災機能」を備えた公園づくりを進める考えについて	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	市歌を活用した啓発について	
	<p>稲城市は令和8年に市制施行55周年を迎えます。</p> <p>市制施行50周年を記念して制作された市歌は、市民が郷土への愛着を深めるための重要な文化資産であり、将来を担う子供たちへ地域への誇りや愛着、いわゆるシビックプライドを育む上でも大きな役割を果たすものと考えます。</p> <p>私自身、幼少期から成年になるまで隣接する川崎市で過ごしましたが、川崎市ではごみ収集車が市歌のメロディを流しながら収集を行っており、そのメロディは今でも記憶に残っています。市歌を日常生活の中で自然に耳にすることは、地域への愛着を育む効果があると感じております。</p> <p>また、ごみ収集車から流れるメロディは、ごみ出し忘れの防止や収集車の接近を知らせる役割も果たしており、市民サービスの向上という観点からも有効な取り組みであると考えます。</p> <p>市制施行55周年という節目を迎える中、市歌をさらに活用する好機と捉え、ごみ収集時に市歌のメロディを活用することについて、市の認識を伺います。</p>	
	(1) 市歌の活用状況について	
	① 市歌の認知度向上に対する市の取り組みについて	
	② 学校教育などにおける活用状況について	
	(2) 市歌を活用したシビックプライド醸成について	
	① 市歌が市民の郷土愛やシビックプライド醸成に果たす役割について	
	② 子供たちが市歌に触れる機会を増やすことについて	
	(3) ごみ収集時におけるメロディ放送について	
	① ごみ収集車におけるメロディ放送の現状について	
	② ごみ収集時における他自治体の市歌の活用事例について	
	③ ごみ出し忘れ防止や啓発効果に対する市の認識について	
	④ ごみ収集車で市歌のメロディを活用することに対する市の考えについて	

	(4) 今後の取組について	
	① 市制施行 55 周年に向けた市歌活用の考え方について	
	② 市歌を活用した新たな啓発事業について	

通告番号	会派名	氏名
14	稲志会	中田 中

項目番号	質問要旨	摘要
1	市職員の勤怠管理の効率化・デジタル化について	
	<p>自治体経営において、最大の経営資源は「職員という人財」だと考えます。多様な市民ニーズに対応するには、全ての職員がその能力を最大限発揮してもらう必要があります。しかし、急速な少子高齢化に伴う労働者不足は、行政組織の現場にも確実に押し寄せており、限られた人数で業務をこなしていくには、内部事務のスリム化が不可欠です。特に様々な勤務形態を持つ会計年度任用職員を含む職員の勤怠管理は、BPR を伴う自治体 DX が効果を発揮しうる業務領域の一つだと考えます。</p> <p>そのため、現状の業務の実態を把握した上で、その改善の余地について確認させていただくことで、各々の職員が、より付加価値の高い市民サービスに注力できるような環境づくりの一助になることを期待して、質問させていただきます。</p>	
	(1) 市職員の勤怠管理の現状について	
	① 勤怠データの収集媒体・システム、入力・集計方法、チェック体制の現状について伺います。	
	② 多様な勤務形態における現場管理職や庶務担当者の業務負担の実態について伺います。	
	(2) 会計年度任用職員の勤怠管理の現状について	
	① 勤怠データの収集媒体・システム、入力・集計方法、チェック体制の現状について伺います。	
	② 勤怠データの集計・チェック等に要している事務負担についてどの程度把握されているか伺います。	
	③ 勤怠データに基づく客観的な労働時間管理（超過勤務抑制や休憩・休暇の付与等）の実施状況について伺います。	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	(3) BPR を伴う勤怠管理のデジタル化・自動化について	
	① 現行の勤怠管理における二重管理や再入力作業の有無について伺います。	
	② クラウドサービス等の活用による二重運用の排除やUIの改善余地について伺います。	
	③ ガバメントクラウド移行やシステム標準化に伴う、勤怠管理を含む人事管理システムの将来像について伺います。	
2	市のスポーツ施設（テニスコート等）の適正利用と管理体制の強化について	
	市のスポーツ施設、特にテニスコートにおいて、市民から「特定のグループが多くの枠を押さえていると思われる」や「利用時間終了後の施錠不徹底により時間外利用が疑われる」といった懸念の声が寄せられました。実状がどうかに関わらず、市民から不信感を持たれる状況は避けるべきと考えます。利用手順とルール、実際の利用状況（およびその把握方法）について確認した上で、改善の方向性について議論させていただきたいと考え、質問します。	
	(1) 市のスポーツ施設（テニスコート等）を利用する際の手順とルールについて伺います。	
	(2) 市のスポーツ施設の現在の管理状況（利用者の本人確認や施錠管理等）と、その状況を市がどのように把握しているのか伺います。	
	(3) 市民からの懸念の声に対する市の見解について	
	① 「特定のグループが多くの枠を押さえていると思われる」との声をいただきましたが、それに対する市の見解を伺います。	
	② 「利用時間終了後の施錠不徹底により時間外利用が疑われる」との声をいただきました。操法訓練の帰宅途中（23 時すぎ）、若葉台公園テニスコートを確認したところ全て未施錠でした（2 週間で 6 日ほど）。時間外に利用されることも問題ですが、	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>夜間未施錠のまま放置されている状況はより重大な問題です。現在のスマートロックの見直しも含めて改善検討すべきと考えますが、それに対する市の見解を伺います。</p>	
3	<p>上谷戸川の保全・整備について</p>	
	<p>上谷戸川沿いに整備された上谷戸親水公園は、自然の湧水と小川を生かした親水環境で、水遊びやホタル観賞を楽しめる市民の憩いの場ですが、近年は最上流の池の水量が減って藻が大量繁殖し、水遊びを楽しめる状況にはありません。定期的にかいぼりは行われていますが、水をためるとまた藻が繁茂する、の繰り返しで抜本的な解決には至っていません。</p> <p>現在の水質・水量の変化に対する市の認識を確認するとともに、池のあり方そのものを見直し、現在の水量に見合った「水路への改修」など、持続可能で管理負担の少ない新たな親水空間への転換を進められないか、との思いから質問させていただきます。</p>	
	<p>(1) 上谷戸川の最上流部の池（場所としては若葉台公園の一部）およびその下流の小川における近年の水質・水量の変化について市の認識を伺います。</p>	
	<p>(2) 上谷戸川流域において、これまで市が取り組んできた維持管理（かいぼり等）の実績とその効果検証について伺います。</p>	
	<p>(3) 現在の湧水量に見合った改修（池をやめ、流動性のある水路への転換する、等）の実現性について市の見解を伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
15	日本共産党	田島きく子

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>i バスについて</p> <p>(1) 利用者から出されている声について ①「A コースについて、4 便と 5 便の間が 2 時間以上あってバスに乗れない、最終バスが午後 5 時台になってしまったため、困っている。せめて 1 時間に 1 本として、帰りも午後 7 時台まで乗れるようにしてほしい。」この声に対しての市の認識を聞きます。 ②「矢野口駅では A コースの往路と復路のバスが同じ停留所にほぼ同時刻に停車するために、乗り間違いがたびたび発生する。もう少しわかりやすく往路・復路を表示してほしい。」この声に対しての市の認識を聞きます。</p> <p>(2) 東京都シルバーパスについて ① i バスでの東京都シルバーパスの年間延べ利用者数について聞きます。 ② i バスの東京都シルバーパス利用分について東京都からの年間補助額について聞きます</p>	
2	<p>都営大丸団地跡地の活用について</p> <p>(1) 都営大丸団地跡地に都立調布特別支援学校の仮設校舎が整備されることとなった経緯について聞きます。</p> <p>(2) 予定されている仮設校舎の建物の概要について聞きます。</p> <p>(3) 仮設校舎としての役割終了後の当該跡地の活用予定について聞きます。</p>	
3	<p>学校の暑さ対策について</p> <p>(1) 市立小中学校において暑さ対策として行う予定の施策について聞きます。</p> <p>(2) それぞれの学校で学校予算の範囲内で暑さ対策に取り組んでいると思いますが、それらの取り組み状況について聞きます。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
<p>(3)</p> <p>4</p> <p>(1)</p> <p>(2)</p>	<p>多摩地域の自治体では、今年度からの施策として遮熱コーティング塗料の活用や遮熱カーテンの設置、ファン付きベストの配布、ミストシャワーの実施などに取り組んでいるが、それらの施策の把握状況について聞きます。</p> <p>生理用品の学校トイレへの設置について</p> <p>市立の小中学校においてトイレに生理用品を設置されている学校の有無について聞きます。</p> <p>市の施策としてすべての市立小中学校トイレに生理用品を設置することが必要だと考えますが、市の認識を聞きます。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
16	改革未来の会	榎本 久春

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	介護予防事業について	
	<p>近年、全国的に高齢化が進展する中、介護を必要としない健康寿命の延伸は、自治体運営において極めて重要な課題となっております。本市におきましても、高齢者人口の増加に伴い、介護需要の増加が見込まれる中、介護予防の取組をさらに充実させていく必要があると考えます。特に近年は、要介護状態に至る前段階である「フレイル」への早期対応が重要視されており、国においても、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施が推進されております。また、介護予防は単に身体機能の維持だけではなく、高齢者の社会参加や地域とのつながり、生きがいづくりにも大きく関係するものであり、孤独・孤立対策の観点からも重要な施策であります。</p>	
	<p>(1) 本市における要支援・要介護認定者数の推移について、市はどのように分析しているのか。また、介護予防事業の成果をどのように捉えているのか伺います。</p>	
	<p>(2) フレイル状態にある高齢者について、市はどのような方法で把握を行っているのか。また、早期介入に向けた取組状況について伺います。</p>	
	<p>(3) 現在実施している通いの場や介護予防教室について、参加率、継続率及び効果の検証についてどのように行っているのか伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(4) 高齢者の中には、移動手段の不足や地域とのつながりの希薄化などにより、外出機会が減少している方もいると考えます。市として、閉じこもり予防や社会参加促進についてどのように取り組んでいるのか伺います。</p>	
	<p>(5) 自主グループや通いの場など地域活動の担い手については、高齢化や固定化が課題となっていると考えますが、市はどのように認識しているのか。また、担い手確保に向けた支援について伺います。</p>	
	<p>(6) 健康状態不明者の把握・支援の追加における対象者について、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を令和7年度より実施されていることについて伺います。</p>	
	<p>① KDB システムの概要について伺います。</p>	
	<p>② 後期高齢者の健康状態不明者の対象者について伺います。</p>	
	<p>③ 後期高齢者健診データやKDB システムなどを活用し、健診・医療・介護・地域活動等の情報を横断的に連携、分析した「フレイル予防プラットフォーム」の構築が必要であると考えますが、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	シェアサイクルの拡充について	
	<p>近年、シェアサイクルは環境負荷の低減や健康増進に資するだけでなく、公共交通を補完する身近な移動手段として全国的に普及が進んでおります。</p> <p>本市においてもシェアサイクル事業が導入され、市民の移動利便性向上や回遊性の向上に一定の効果을 上げているものと認識しております。一方で、本市は坂道の多い地形的特性を有していることに加え、南山地区をはじめとする新たな市街地整備の進展や人口増加に伴い、駅や公共施設、商業施設等への移動需要は今後さらに高まるものと考えます。</p> <p>また、高齢化が進展する中、高齢者の外出支援や健康づくり、さらには脱炭素社会の実現や観光振興など、多様な政策課題への対応という観点からも、シェアサイクルの役割は今後ますます重要になるものと考えます。そこで、本市におけるシェアサイクル事業の現状と今後の方向性について伺います。</p>	
	<p>(1) 本市におけるシェアサイクル事業の状況について、サイクルポートの設置数や利用回数の推移について伺います。</p>	
	<p>(2) 本市は坂道の多い地域特性があり、また駅から住宅地や公共施設まで距離のある地域も存在します。こうした地域特性を踏まえ、シェアサイクルを公共交通の補完手段としてどのように考えられているのか伺います。</p>	
	<p>(3) ミドル・シニア世代の外出機会の創出や健康増進、フレイル予防の観点から、シェアサイクルの活用について、市の見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(4) シェアサイクル事業について、利用実績や設置状況、交通政策など様々な観点から伺いましたが、最後に市として事業効果をどのように評価しているのか伺います。</p>	

通告番号	会 派 名	氏 名
17	改革未来の会	いそむら あきこ

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
1	<p>多様な保育ニーズへの対応と待機児童対策について</p> <p>共働き世帯の増加や働き方の多様化に伴い、子育て家庭が求める保育ニーズも大きく変化しています。待機児童対策に加え、急な通院や保護者のリフレッシュ、短時間利用など、多様な事情に対応できる柔軟な支援体制の充実が求められています。</p> <p>現在、市内では保育園において一時預かり事業が実施されていますが、「予約が取りづらい」「急な利用が難しい」といった声も聞かれています。また、待機児童対策についても、保育施設だけではなく、多様な保育資源を活用した支援のあり方が重要になっていると考えます。</p> <p>東京都では、区市町村が実施主体となり、ベビーシッター利用料の負担軽減を行う「ベビーシッター利用支援事業」を実施しており、一時預かり利用支援や待機児童対策として導入する自治体も広がっています。そこで、本市における一時預かり事業の現状や課題、待機児童対策の状況、さらには東京都の補助制度を活用した新たな支援策について伺います。</p> <p>(1) 保育現場の現状と支援体制について 待機児童対策、一時預かり事業、地域子育て支援、医療的ケア児や配慮が必要な子どもへの対応等に加え、「こども誰でも通園制度」の実施など、近年、保育園に求められる役割は大きく拡大していると考えます。こうした中、保育現場における負担感について、どのように認識しているのか伺います。</p> <p>(2) 一時預かり支援について ①過去5年間の市内で一時預かり事業を実施している施設数、定員数及び利用実績について伺います。 ②一時預かり事業について、予約の取りづらさや急な利用ニーズなど、市として現在どのような課題や利用者の声を把握しているのか伺います。 ③東京都の「ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)」の事業概要及び、現在の導入自治体の状況について伺います。 ④東京都の「ベビーシッター利用支援事業(一時預かり利用支援)」の補助金を活用し、保護者の急な用事やリフレッシュ、一時預かり予約の取りづらさへの対応など、多様な保育ニーズに応える観点から、本市として導入を検討すべきと考えるが、見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
2	<p>(3) 待機児童対策について</p> <p>①過去5年間の待機児童数の推移及び対策により解消につながった人数について伺います。</p> <p>②今後予定している待機児童対策により、いつ頃までにどの程度の待機児童数の解消を見込んでいるのか伺います。</p> <p>③東京都の「ベビーシッター利用支援事業(事業者連携型)」の事業概要及び、現在の導入自治体の状況について伺います。</p> <p>④東京都の「ベビーシッター利用支援事業(事業者連携型)」の補助金を活用し、待機児童が発生している現状を踏まえ、保護者の就労継続を支えるための緊急的・暫定的な待機児童対策として、本市として導入を検討すべきと考えるが、見解を伺います。</p> <p>2 育児休業中における学童クラブの継続利用と子育て支援について</p> <p>少子化対策や共働き世帯への支援、女性の就労継続支援の重要性が高まる中、育児休業期間中における上の子の生活環境や放課後の居場所の確保は、子育て家庭にとって大きな課題となっています。一方、本市では、保護者が育児休業を取得した場合、学童クラブを退所とする取扱いとなっていますが、自治体によっては、一定条件のもと利用を認めている事例もあります。</p> <p>そこで、本市における現行制度の考え方や実態、今後の制度改善の可能性について伺います。</p> <p>(1) 児童福祉法では、学童クラブの対象について「保護者が労働等により昼間家庭にいないもの」と規定されているが、育児休業を取得した場合に、児童を退所としなければならないことまで法令上明記されているのか伺います。</p> <p>(2) 本市では、育児休業を取得する場合は退所となる取扱いとしているが、理由について伺います。</p> <p>(3) 過去3年間における、育児休業取得を理由として学童クラブを退所した件数について伺います。また、継続利用や入所を希望していたにもかかわらず利用できなかったことに関する相談事例及び相談件数について伺います。</p> <p>(4) 少子化対策、多子世帯支援、女性の就労継続支援等の観点から、育児休業中における学童クラブの継続利用や申請に関する制度改善について、他市の事例等から検討の余地があるかと考えるが、見解を伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
3	<p>金利環境の変化を踏まえた公金管理・運用について</p> <p>近年、金利環境が大きく変化する中、自治体における公金管理のあり方も重要な転換点を迎えております。地方自治法では、公金について「確実かつ効率的」に管理することが求められておりますが、これまでの超低金利環境下では、安全性の確保が重視されてきました。一方、現在は金利のある時代へ移行しつつあり、公金を単に預金として保有し続けることが、本当に「効率的な管理」と言えるのかも含め、改めて検討すべき局面に来ていると考えます。また、他自治体では、基金運用において国債等を活用するほか、ESG債などを通じて、運用益の確保と持続可能な社会の実現を両立させる取組も進められております。</p> <p>自治体が保有する基金は市民の大切な財産であり、安全性の確保は大前提であります。時代の変化に応じて、公金管理・運用のあり方についても柔軟に検討していく必要があると考えます。そこで、以下について、伺います。</p> <p>(1)現状について</p> <p>①本市では現在、公金（基金及び歳計現金等）について、どのような基準・方針に基づき管理・運用を行っているのか伺います。また、公金に関する管理・運用方針やマニュアル等は整備されているのか伺います。</p> <p>②地方自治法では、積み立てた基金は、「確実かつ効率的に運用しなければならない」と規定されているが、「確実かつ効率的」という考え方について、どのように認識しているのか伺います。また、「効率的」という観点について、現状どのように評価・検証しているのか伺います。</p> <p>③現在、本市では国債等による運用は実施しているのか伺います。また、実施している場合、その内容について伺います。</p> <p>④公金管理・運用における安全性や価格変動リスク、流動性リスク等について、どのような考え方でリスク管理を行っているのか伺います。</p> <p>(2)ESG債について</p> <p>①ESG債について、本市の認識を伺います。</p> <p>②財源確保と持続可能な社会の実現を両立させる観点から、ESG債を活用する自治体も増えているが、都内近隣自治体における導入・運用状況について、どのように把握しているのか伺います。</p>	

項目 番号	質 問 要 旨	摘 要
	<p>(3)今後の方向性について</p> <p>本市においても、安全性及び流動性を確保した上で、運用益の向上とSDGsの推進を両立する観点から、ESG債を含む運用対象の拡大や投資表明のあり方等について研究・検証を進めていくべきと考えるが、見解を伺います。</p>	